

阿蘇医療センターが担う 役割について

平成30年12月 阿蘇医療センター

1 現状と課題

◎当院の目標

当院は、平成26年8月に新築移転し開院しましたが、その前身である阿蘇中央病院の開設以来、阿蘇地域における公立病院として地域住民の健康維持と福祉の向上に重要な役割を果たしてきました。

平成28年4月に発生した熊本地震による交通インフラ障害の影響から、阿蘇医療圏における医療需要は激変しており、地震後の地域的特殊事情を踏まえ、経営改善に取り組みつつ、環境や医療需要の変化に照らし地域に適応する医療提供体制を確保し、地域にとって必要な公立病院として存続することを目指しています。

1 現状と課題

◎基本理念

本院は、地域の中核病院として、地域の医療機関や関連施設と連携を図りながら、患者の視点に立った医療の提供を実践し、地域住民の健康の維持と福祉の向上に貢献する。

◎基本方針

- 1 地域住民の希望、期待、要求に対応した適正な医療の提供
- 2 生命の尊重を基本とした安全安心で良質な医療の提供
- 3 医学・医療の進歩に沿った知識・技術の習得と医療水準の向上

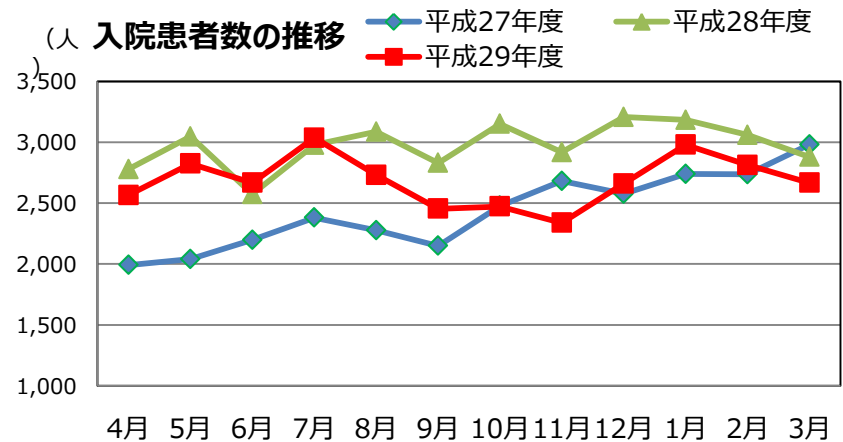
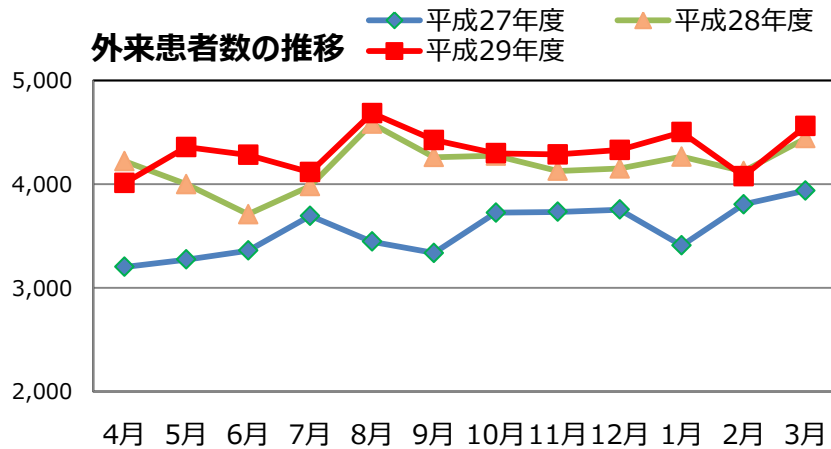
1 現状と課題

【基礎情報】

- ◎病床数 一般病床120床・感染症病床4床 計124床
(内訳 急性期一般入院料4：103床、地域包括ケア：21床)
- ◎診療科 内科、脳神経外科、循環器内科、小児科、脳神経内科、整形外科、リハビリテーション科、消化器外科、リウマチ膠原病内科、乳腺内分泌外科、糖尿病・代謝・内分泌内科、血液内科、腫瘍内科
【全13診療科＋小児科専門外来＋肝疾患外来、人工透析】
- ◎主な診療実績（平成29年度実績）
 - ・1日平均外来患者数：213人（年間延べ51,922人）
 - ・1日平均入院患者数：88人（年間延べ32,210人）
 - ・病床稼働率：73.5% ・平均在院日数：16.8日
 - ・救急患者数：4,546人（うち救急搬送受入患者数：886人）
 - ・人工透析：5,192件 ・各種健診：2,763件

1 現状と課題

【診療実績】



	外来患者数	入院患者数	救急患者数	病床稼働率	平均在院日数	紹介率	逆紹介率	手術件数	カテーテル検査実施件数
27年度	42,669人	29,229人	4,032人	66.6%	21.0日	26.2%	26.3%	164件	42件
28年度	50,136人	35,693人	5,342人	81.5%	18.1日	33.7%	26.3%	184件	63件
29年度	51,922人	32,210人	4,546人	73.5%	16.8日	34.9%	29.8%	170件	67件

	CT撮影	MRI撮影	透析件数	リハビリ単位数	臨床検査数	内視鏡検査数	超音波検査数	人間ドック
27年度	3,364件	1,959件	4,667件	44,347件	71,642件	702件	1,380件	47件
28年度	4,540件	2,231件	6,059件	47,727件	94,519件	772件	1,517件	74件
29年度	4,144件	2,317件	5,192件	52,473件	97,252件	806件	1,498件	82件

1 現状と課題

【職員数】

(平成30年10月現在)

職種		常勤	非常勤	計	職種		常勤	非常勤	計
医師		9	21	30	看護部	看護師	84	9	93
医療技術部	薬剤師	5		5		准看護師	1	4	5
	臨床検査技師	5	1	6		看護補助者 (外部委託)	(8)		(8)
	診療放射線技師	6		6	事務部	社会福祉士	2		2
	理学/作業療法士	12		12		医師事務 作業補助者	1	1	2
	言語聴覚士	1		1		事務	11	4	15
	臨床工学技士	4		4					
	管理栄養士	3		3	その他			3	3
					合計	144 (8)	43	187 (8)	

1 現状と課題

【主な指定・告示・認定】

H8.5.10(継続H26.8.6)	地域災害拠点病院指定
H11.4.1	第二種感染症指定医療機関指定
H16.3.31	臨床研修指定病院[協力型]指定
H21.3.23(継続H26.8.11)	救急指定病院告示
H25.3.1	厚生医療施設[腎臓：透析]指定、H26.12.1[心臓脈管外科]指定
H26.3.13	熊本DMA T指定病院指定
H27.1.1	難病指定病院指定
H27.1.1	小児慢性特定疾病指定医療機関指定
H27.12.29	脳卒中急性期拠点病院及び回復期医療機関指定
H28.2.29	急性心筋梗塞急性期拠点病院及び急性心筋梗塞回復期医療機関指定
H28.4.1	日本循環器学会専門医研修関連施設認定
H28.4.1	日本神経学会専門医制度における教育関連施設認定
H28.11.1	地域密着リハビリテーションセンター指定
H29.1.1	日本医療薬学会認定薬剤師制度による研修施設認定
H29.8.2	日本脳神経外科学会専門医認定制度に基づく研修プログラム参加施設認定
H30.3.30	へき地医療拠点病院指定

1 現状と課題

【阿蘇医療センターが担う政策医療《5疾病5事業》】

◇ 5 疾病

がん	<ul style="list-style-type: none">・がん化学療法を実施しています。・H30年4月から、院内に「阿蘇がんサロンえがお」を開設しました。・H30年8月から、腫瘍内科外来を開設しました。・熊本県指定がん診療拠点病院の指定に向けて、準備しています。
脳卒中	<ul style="list-style-type: none">・診療体制: 専門医3名《常勤医2名・非常勤1名(週1回)》・脳卒中急性期拠点病院及び回復期医療機関の指定を受けています。・熊本大学附属病院と連携し、24時間対応のt-PA治療を行っています。
急性心筋梗塞	<ul style="list-style-type: none">・診療体制: 専門医4名《常勤医2名・非常勤2名(週1回)》・急性心筋梗塞急性期拠点病院及び急性心筋梗塞回復期医療機関の指定を受けています。・日本循環器学会専門医研修関連施設の認定を受けています。・心臓カテーテル検査・治療及びペースメーカー植込術・ペースメーカー遠隔診断を行っています。・休日の緊急対応が課題です。
糖尿病	<ul style="list-style-type: none">・診療体制: 専門医1名《非常勤1名(週1回)》・H27年4月から、専門外来(重症患者)を開設しました。・H30年6月から、NST(栄養サポート)チームを発足しました。・H30年9月から、教育入院を始めました。
精神疾患	(阿蘇やまなみ病院と連携)

1 現状と課題

◇ 5 事業

救急医療	<ul style="list-style-type: none">・救急告示病院として救急搬送患者の受入れをしています。・病院群輪番制病院として他の4病院と協力し、二次救急を担っています。・院内で、BLS・ACLSの講習を行い、救急対応の普及に努めています。 (H29コメディカル全体の資格取得率:BLS71%・ACLS17%)・平日夜間及び休日の救急外来の診療体制の拡充が求められています。
災害医療	<ul style="list-style-type: none">・地域災害拠点病院の指定を受けています。・院内にDMAT2チームを保有し、院長が地域災害医療コーディネーターに就任しました。・平成28年熊本地震では、震災直後から救急搬送患者の受入れを行いました。・地震後、熊本市内等の医療機関への通院困難者のために各種専門外来を開設しました。・H29年3月にBCP(業務継続計画)を策定していますが、内容の更新を図ります。
へき地医療	<ul style="list-style-type: none">・へき地医療拠点病院の指定を受けています。・波野診療所を併設し、当院常勤医師2名を派遣しています。(週2日)・産山村診療所に当院常勤医師を1名派遣しています。(月1回)・医師不足により、派遣医師の確保に苦慮しています。
周産期医療	(阿蘇温泉病院と連携)
小児医療 (小児救急医療)	<ul style="list-style-type: none">・小児慢性特定疾病指定医療機関に指定されています。・診療時間の延長(週4日/夕方1時間)しています。・H28年8月から小児PTSD外来、特殊疾患外来を開設しています。・障がい児(者)のレスパイト受入れ準備をしています。・救急外来対応、入院対応の拡充が求められています。

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

(1) 地域医療構想を踏まえた阿蘇医療センターの果たすべき役割

熊本県地域医療再生計画事業のもとに建設された阿蘇医療センターの役割は、救急医療機能の充実、地域完結型医療の推進、急性期医療の体制整備等の実現を推進する必要があるとあり、公立の中核病院として、地域の医療機関や関連施設と連携を図りながら、患者の視点に立った医療の提供を実践し、地域住民の健康の維持と福祉の向上に貢献するという阿蘇医療センターの基本理念に沿って、次の役割を担う運営を行っていくこととしています。

(ア) 救急医療機能の充実

- 二次救急医療体制の確保
- 災害拠点病院としての機能整備

(イ) 地域完結型医療の推進

- 阿蘇郡市医師会、地域医療機関等との連携の推進
 - ⇒地域医療連携システムの利用促進
 - ⇒地域包括ケア病床の運用促進
 - ⇒開放型病床の運用促進

(ウ) 脳疾患・心疾患の急性期医療の体制整備

- 阿蘇医療圏域、大分県境の患者への専門医療の提供
- 阿蘇周辺地域を含めた脳疾患・心疾患の拠点病院化の実現

(エ) 医師確保

(外科、整形外科、麻酔科の常勤医)

(オ) 専門外来の増設

- (歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、がん診療、肝疾患、もの忘れ、皮膚科)

(カ) 健診業務の充実

- がんや生活習慣病の予防や早期発見への対応
- 糖尿病の発症・重症化予防への対応

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割

住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築の実現のため、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが求められている。

当院は、急性期を担う地域の中核病院として、他の医療機関との機能分担及び連携を基本とし、急変時の救急受入れに努めるとともに、患者が退院後も介護・福祉への切れ目のないケアを受けられるよう、地域医療連携室から地域包括支援センターや地域の介護・福祉施設への患者情報提供や退院時カンファレンスの取り組み等を行っていくこととします。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期	0	0	0
急性期	120	120	120
回復期	0	0	0
慢性期	0	0	0
その他(感染症)	4	4	4
合計	124	124	124

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 ① 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

当院が、阿蘇医療圏の中核病院としての役割を果たしていくためには、今後とも5疾病・5事業を中心に医療提供を継続することが求められていますので、病床数の維持が必要です。

また、急性期に係る疾病の専門医療機関がなかったため、他の圏域に患者が流出していましたが、開院をきっかけに更なる救急機能の充実強化、脳疾患・心疾患治療体制の整備、健診業務の充実等により、病床を活用して圏域内の医療機関と連携を密にすることで改善が図られております。

今後更に医療機能を充実させ、地域完結型医療の推進を積極的に図ります。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 2018年 (30年10月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科 脳神経外科 循環器内科 小児科 脳神経内科 整形外科 リハビリテーション科 消化器外科 リウマチ膠原病内科 乳腺内分泌内科 糖尿病・代謝・内分泌内科 血液内科 腫瘍内科 全13診療科 ＋小児科専門外来、人工透析	同左	地域中核病院として地域の 需要に応えるため
新設	—	歯科口腔外科 耳鼻咽喉科	県・郡市歯科医師会の要望 地域住民の要望
廃止	—	—	—
変更・統合	—	—	—

3 具体的な計画

(2) 数値目標

	現時点 2018年 (30年10月時点)	2025年
①病床稼働率	76.7%	90.0%以上
②紹介率	38.6%	50.0%以上
③逆紹介率	37.4%	50.0%以上

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組み】

①地域医療連携の強化	<ul style="list-style-type: none">・常勤医師の医師会入会(9名中7名入会)・阿蘇IDリンクの活用・くまもとメディカルネットワークの同意取得推進・「地域連携の会」の開催継続
②歯科口腔外科の開設	<ul style="list-style-type: none">・病床運用
③糖尿病対策	<ul style="list-style-type: none">・栄養サポートチームの活動強化・教育入院の推進
④認知症対策	<ul style="list-style-type: none">・認知症サポートチームの活動促進
⑤肝疾患対策	<ul style="list-style-type: none">・肝疾患専門外来の開設
⑥開放型病床の活用推進	<ul style="list-style-type: none">・運営委員会の活用・関連病院の巡回等

【課題】

①地域医療構想への対応	<ul style="list-style-type: none">・病床運用の検討、転換
②地域包括ケアシステム構築への参画	<ul style="list-style-type: none">・公立病院を中心としたシステムの構築・「在宅医療サポートセンター」の取組み

4 その他特記事項

(1) 教育活動

阿蘇医療圏の医療水準の向上並びに当院職員の資質向上を図るため、臨床研修医をはじめ看護師・薬剤師・技師(士)・療法士・栄養士の養成施設の臨床実習生、救急救命士の病院実習生の受入れのほか、医学部学生の早期臨床体験実習生及び特別臨床実習生の受入れも積極的に行っています。

さらに職員については、院外研修等への積極的参加や卒後の資格取得を推奨しているほか、院内ではBLS・ACLSの研修会受講、研究発表会等を実施しています。

また、地域の医療・介護・行政関係者を対象とした研修会、講演会等を企画開催しています。

(2) 住民啓発活動

地域住民向けの啓発活動としては、各種疾患・予防医療・高齢者医療・救急医療等に関して理解向上を図るため、出前講座・市民公開講座・健康フェスタ等を積極的に開催しています。

4 その他特記事項

- 第7次阿蘇地域保健医療計画において、当院に求められている機能の充実に努めます。
- 医療機関はもとより介護・福祉関係機関と連携を密にし、地域包括システムの構築に積極的に参画します。
- 地域医療構想調整会議の協議結果を尊重し、当院の改革プランを準拠します。